

関係者各位

2025 年 12 月 17 日

**PRISM BioLab とエーザイが共同創出した E7386、Clinical Cancer Research
誌にて非臨床研究結果に関する学术论文が発表される**

—PRISM BioLab 独自の PPI 阻害技術を活用した E7386、
国際産学連携にて肝細胞がんへの応用可能性が検討される—

株式会社 PRISM Biolab（本社：神奈川県藤沢市、以下「PRISM BioLab」）は、このたび、当社とエーザイ株式会社（本社：東京都文京区、以下、「エーザイ」）により共同創出された E7386(*1) について、レンバチニブメシル酸塩（以下「レンバチニブ」）(*2) との併用の有効性に関する学术论文が、国際医学雑誌「Clinical Cancer Research」にて公開されましたので、お知らせいたします。

本論文は、エーザイと Llovet 教授の研究グループらが行った国際産学連携の共同研究の成果に基づくものであり、肝細胞がん治療において、E7386 がレンバチニブの抗腫瘍効果を増強する可能性を示唆しています。

【論文概要】

論文タイトル：E7386 enhances lenvatinib' s antitumor activity in preclinical models and human hepatocellular carcinoma

（邦訳：E7386 は肝細胞がん前臨床モデルおよびヒト肝細胞がん由来モデルにおいてレンバチニブの抗腫瘍効果を増強する）

責任著者：Josep M Llovet, MD, PhD, FAASLD（マウントサイナイ医科大学 医学部（肝臓）教授、マウントサイナイ肝がんプログラム ディレクター）

DOI：<https://doi.org/10.1158/1078-0432.CCR-25-0725>

【論文要旨】

目的： β -カテニンの異常活性化は肝細胞がん（HCC）の約 30%に認められるが、依然として創薬困難な分子標的である。本研究では、CREB 結合タンパク質（CBP）/ β -カテニンのタンパク質間相互作用を標的とする経口阻害剤である E7386 の抗腫瘍効果と、その作用メカニズムを検証した。

E7386 は、ヒト HCC マウスモデルにおいてレンバチニブの抗腫瘍活性を増強した。さらなるメカニズム解析により、E7386 は単なる CBP/ β -カテニン阻害にとどまらず、統合的ストレス応答（integrated stress response：ISR）の促進や抗血管新生作用の増強などに関与し、レンバチニブに対する腫瘍の感受性を高めることが示唆された。これらの結果は、E7386 とレンバチニブ併用の整合性を担保するとともに、治療対象となるがん種が β -カテニン異常がんにとどまらず、さらに拡大することが期待される。

(※1)E7386 について

エーザイと共同創出した経口投与可能な CBP/ β -カテニン相互作用阻害剤である E7386 は、がん細胞の悪性化に関与する CBP/ β -カテニンシグナルの下流において、 β -カテニンと CBP のタンパク相互作用を阻害する経口低分子薬です。2021 年 10 月に POC(Proof of Concept)を達成し、現在は単剤での固形がんを対象とした第 I 相臨床試験のほか、エーザイ創製の経口チロシンキナーゼ阻害剤レンバチニブとの併用による固形がんを対象とした後期第 I 相/第 II 相臨床試験が、エーザイにより実施されています。

(※2)レンバチニブについて

レンバチニブは、血管内皮増殖因子受容体 (VEGFR) である VEGFR1、VEGFR2、VEGFR3 や線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR) の FGFR1、FGFR2、FGFR3、FGFR4 に加え、血小板由来増殖因子受容体 (PDGFR) の PDGFR α 、KIT、RET などの腫瘍血管新生あるいは腫瘍悪性化に関与する受容体型チロシンキナーゼに対する選択的阻害活性を有する、経口投与可能なマルチキナーゼ阻害剤です。本剤は、エーザイが創製し、エーザイと Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USA が提携契約のもと、共同開発および共同商業化を行っています。甲状腺がん、肝細胞がん、胸腺がん、腎細胞がん (エベロリムスとの併用またはペムブロリズマブとの併用) での承認に加え、子宮内膜がん (日本では、子宮体がん) ではペムブロリズマブとの併用療法による適応が承認されています。

(※3)NCT04008797 試験について

エーザイが実施している固形がん患者を対象とした E7386 とレンバチニブとの併用療法を評価するための非盲検第 I / II 相試験です。安全性および忍容性を評価し次相の推奨用量 (RP2D) を決定するとともに、薬物動態および薬理効果を確認します。現在、子宮内膜がん患者さんの登録が進行中です。子宮内膜がん患者さんでの臨床試験結果につきましては、エーザイの発表ならびに当社プレスリリース [140120250521560456.pdf](https://prismbiolab.com/ja/140120250521560456.pdf) をご覧ください。

【株式会社 PRISM BioLab について】

PRISM BioLab は、独自に開発した α ヘリックス・ β ターン模倣技術を活用して、低分子化合物によるタンパク質間相互作用 (PPI) の制御による創薬を目指している企業です。PRISM BioLab は、従来困難であった細胞内で様々な信号を伝達する PPI を制御する独自のペプチド模倣技術である『PepMetrics®』を構築し、がんや線維症分野の臨床パイプラインを創出するとともに、国内外の多数の大手製薬会社と提携してこれまでに無い難病治療薬の創出に取り組んでいます。

詳しくは、<https://prismbiolab.com/ja/> をご覧ください。

【PRISM Biolab 会社概要】

社名 : 株式会社 PRISM BioLab (PRISM BioLab Co., Ltd.)
創業 : 2006 年 11 月
本社所在地 : 神奈川県藤沢市村岡東二丁目 26 番地の 1 湘南アイパーク
事業内容 : 創薬技術開発及び創薬 代表取締役 : 竹原 大
U R L : <https://prismbiolab.com/ja/>



<本件に関するお問い合わせ>

株式会社 PRISM BioLab

Tel : 0466-53-8383

E-mail : info@prismbiolab.com